多摩動物公園　国立大学法人 福島大学 Fukushima University

【リリース先】文部科学省記者会、科学技術記者会、福島県政記者クラブ

東京都、多摩動物公園と同時発表しています

2024 年 9 月 2 日

世界初！アズマモグラの飼育下繁殖

土の中で生きる動物としておなじみのモグラ。しかし、モグラは地下性の動物のために繁殖を含む生態については未解明な部分が多くあります。多摩動物公園（園長　渡部浩文）では、このたび世界初となるアズマモグラの繁殖が確認できましたので、お知らせします。なお、子は死亡して発見されています。この繁殖状況の確認にあたって、国立大学法人福島大学共生システム理工学類の兼子伸吾准教授が DNA 分析による親子鑑定に協力しました。

飼育下でアズマモグラの雌雄を同居させ、交尾から出産に至ったのは、世界的に見ても前例がありません。今回の繁殖では、残念ながら子は死亡して発見されていますが、地中に暮らし、未解明な部分が多いモグラの生態解明にむけた大きな成果です。

１．生まれたアズマモグラ

誕生日：　不明
確認日：　2023 年 7 月 11 日（火）
頭　数：　1頭
性　別：　メス
両　親：　母親：№236（年齢不明）
2021 年 11 月 24 日
多摩動物公園内にて捕獲

父親：№234（年齢不明）
2021 年 5 月 31 日
多摩動物公園内にて捕獲
2024 年 7 月 8 日　死亡

※捕獲にあたっては、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく許可を得ています。





【死亡して発見されたアズマモグラの子と繁殖用の飼育ケース，（公財）東京動物園協会】

２．モグラの繁殖についての背景と繁殖成功、発表に至る経緯

モグラは地下性の動物であり、繁殖を含む生態については未解明な部分が多くあります。飼育自体も容易ではなく、昨年出版された総説論文においても飼育下での繁殖例は世界的に見てもまだ無いとされています(Jiménez et al. 2023)※。

※Jiméne R, Burgo M,Barrionuevo FJ (2023) The Biology and Evolution of Fierce Females (Moles and Hyenas). ***Annual Review of Animal Biosciences*** 11: 141-162. **https://doi.org/10.1146/annurev-animal-050622-043424**

多摩動物公園では、1998 年からモグラ類の飼育を継続してきましたが、飼育下での繁殖には至っていませんでした。2022 年より、あらためて飼育下でのアズマモグラの繁殖を目指して、落ち着いた環境で繁殖ができるように飼育ケースを複数用意したり、雌雄の同居の時期を限定したりするなどしてきました。No.236（メス）と No.234（オス）の２頭については、断続的に同居を重ね、2023 年 3 月 6 日以降は終日同居させていました。2023 年 7 月 11 日に飼育ケースを確認したところ、メスの死体と生存個体 2 頭を発見し、飼育ケース内で繁殖したことが判明しました。なお、No.236（メス）と No.234（オス）の同居を開始するまでは、10 か月以上単独で飼育しているため、No.236（メス）が野生で妊娠し、出産した可能性はありません。

生存個体 2 頭の性別を確かめるため、多摩動物公園内の野生生物保全センターにて PCR 法による性別判定をおこなった結果、生存しているのはオス 1 頭とメス 1 頭であるとわかりました（2023 年 12 月 21 日）。これにより、生まれた子はメスであることが判明しました。

観察から、当初は死亡メスが母親（No.236）、生存メスが子であると考えられたものの、確実な判断を行うため、アズマモグラの親子判定に実績のある福島大学の兼子准教授などとの協力により、野生生物保全センターで遺伝マーカーを用いた親子判定検査を行いました。その結果、死亡個体は生存オス（No.234）と生存メスの対立遺伝子を受け継いでおり、当初の予想に反し生存メスは母親、死亡個体は子であることが判明しました（2024 年 7 月 5 日）。

今回繁殖に成功した雌雄については、2024 年 8 月 31 日現在メスのみが生存しており、非公開の施設で飼育しています。残念ながら、子の死亡が確認されたものの、飼育下で繁殖した事実は生物学的に貴重な知見であることから、多摩動物公園と福島大学と共同で発表するものです。

３．多摩動物公園での飼育状況（2024 年 8 月 31 日現在）

１頭（メス）

４．日本国内の飼育状況（2024 年 8 月 31 日現在）

１園館 （多摩動物公園のみ）

資料：（公社）日本動物園水族館協会ホームページ飼育動物検索および多摩動物公園独自調査の結果より

【参　考】

●アズマモグラ（トガリネズミ目　モグラ科）

学　名：*Mogera imaizumii*

英　名：Small Japanese mole

分　布：東日本を中心に生息。四国、中国地方にも点在している。

生息地：里山から山地の土の中

生態等　体重は 50-130 g で個体による差が大きい。大きくて幅の広い前足を使って地中に網の目のような坑道（トンネル）を作ってくらし、地上に出ることはほぼありません。トンネルの中に落ちてくるミミズや昆虫などを食べる肉食動物で、土壌生態系の中で頂点に位置しています。繁殖期は春から初夏、産子数は 2-6 頭、寿命は野生では 3 年程度と言われています。一生を土の中ですごすため、生態については未解明なことが多い動物です。また、外見から雌雄を見分けることは困難です。

（本発表に関するお問い合わせ先）

【アズマモグラの飼育と繁殖に関するお問い合わせ】

（公財）東京動物園協会

【多摩動物公園】　教育普及係大橋・香坂

電話 042-591-1611（代表）／042-591-1616（17 時以降直通）

【遺伝子解析に関するお問い合わせ】

福島大学　総務課広報係

電　話：024-548-5190

メール：kouho@adb.fukushima-u.ac.jp